

一般国道414号 い ず じゅうかん 伊豆縦貫自動車道  
あまぎきた 天城北道路  
(道路事業)

説明資料

令和5年10月6日

中部地方整備局  
沼津河川国道事務所

# 目 次

<b>1. 事業概要</b>	
(1) 事業目的	P 1
(2) 計画概要	P 2
<b>2. 評価の視点</b>	
(1) 事業効果の発現状況	P 3
①交通渋滞の緩和	P 3
②緊急輸送路の機能強化	P 4
③観光振興の支援	P 5
④救急医療活動の支援	P 7
<b>3. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</b>	
(1) 当初計画及び現在の状態	P 8
(2) 現道の状況	P 8
<b>4. 社会経済情勢の変化</b>	
①幹線ネットワークの拡充	P 9
<b>5. 対応方針（案）</b>	P 10

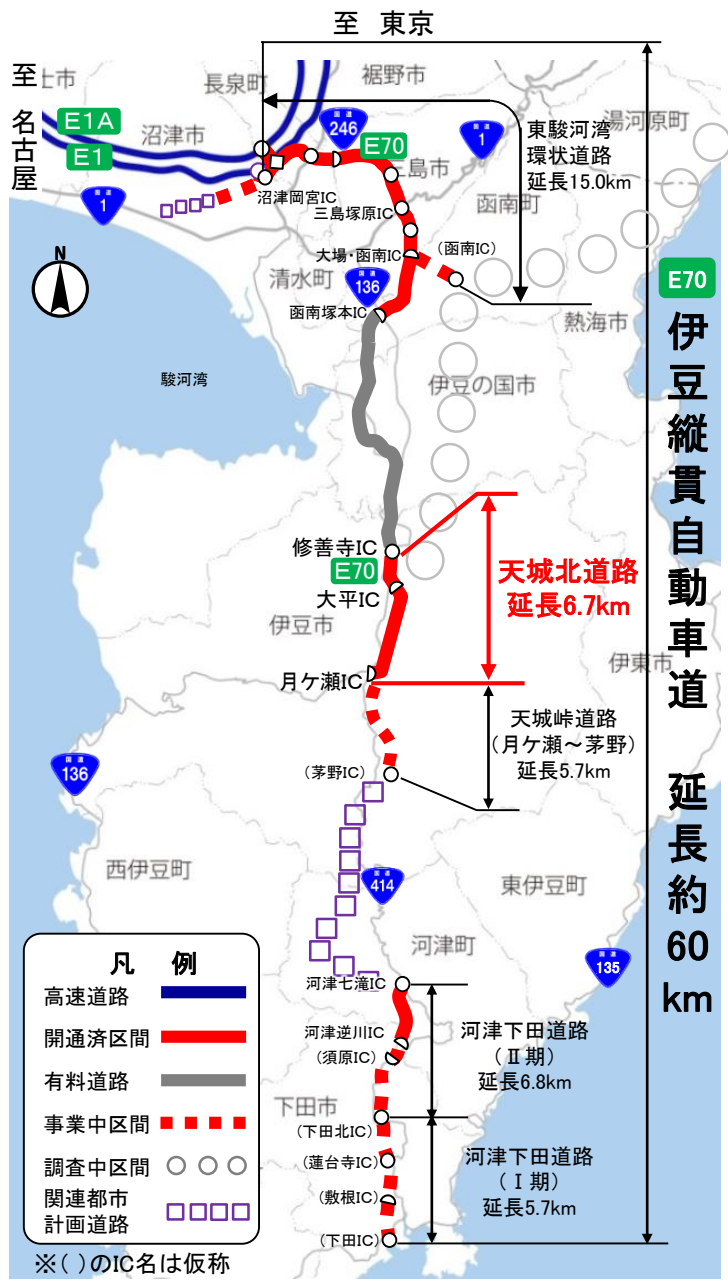
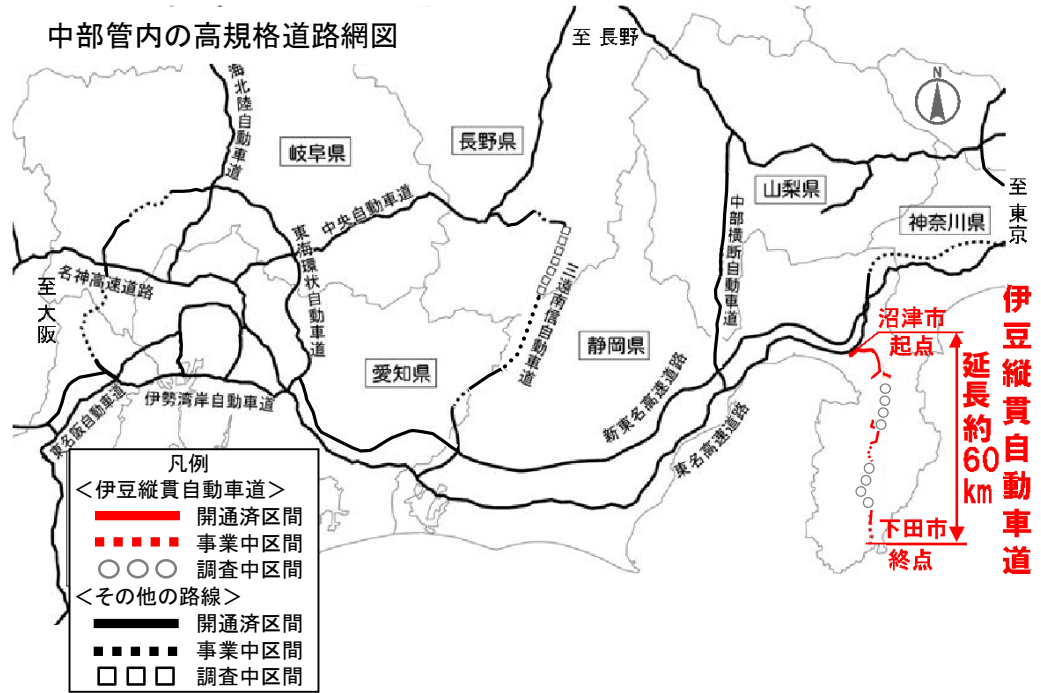
# 1. 事業概要

## (1) 事業目的

■伊豆縦貫自動車道は、静岡県沼津市と下田市を結ぶ延長約60kmの高規格道路です。本自動車道は、東名高速道路及び新東名高速道路と接続して伊豆地域へ高速サービスの提供を図ります。

■一般国道414号天城北道路は、伊豆縦貫自動車道の一部を構成し、交通渋滞の緩和を図るとともに、緊急輸送路の機能強化、観光振興の支援、救急医療活動の支援を目的に実施した、延長6.7kmの事業です。

### 伊豆縦貫自動車道の全体位置図



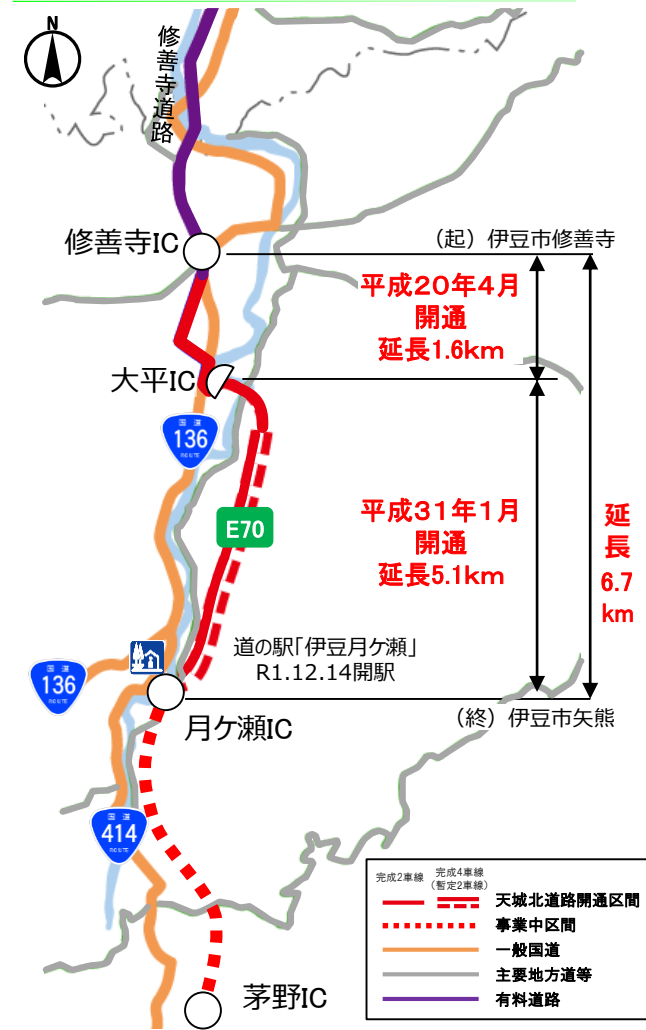
# 1. 事業概要

## (2) 計画概要

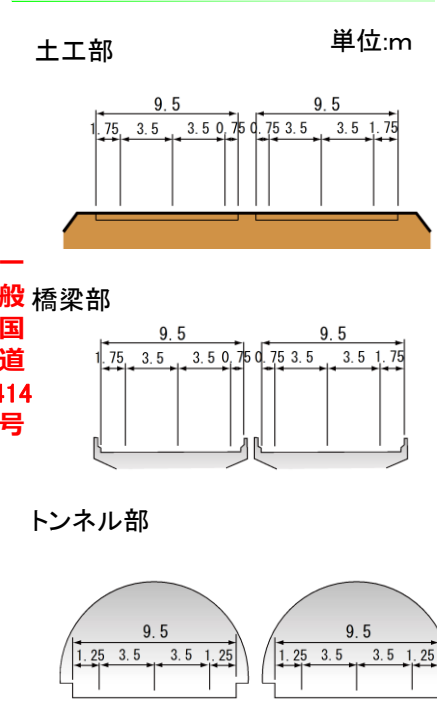
■一般国道414号天城北道路は、平成6年度に事業化しており、平成20年4月に修善寺IC～大平IC間が開通し、平成31年1月に大平IC～月ヶ瀬IC間が開通したことで全線開通しました。

事業名	一般国道414号 伊豆縦貫自動車道 天城北道路
延長	6.7km
道路規格	第1種第3級
設計速度	本線:80km/h、連絡路:60km/h
車線数	完成2車線(修善寺IC～大平IC) 完成4車線(大平IC～月ヶ瀬IC)
事業化	平成6年度
用地着手年度	平成12年度
工事着手年度	平成14年度
工事完成年度	平成30年度
全体事業費	485億円
計画交通量	12,600台/日
B/C(個別)	1.3
B/C(一体)	1.3

### 全体位置図



### 標準断面図



伊豆縦貫自動車道 天城北道路 延長6.7km

【天城北道路】



# 2. 評価の視点

## (1) 事業効果の発現状況

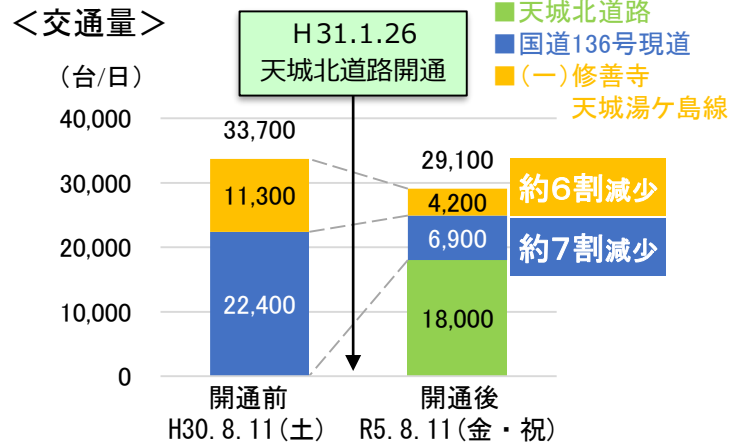
### ① 交通渋滞の緩和

- お盆期間中においては、国道136号現道の出口交差点を先頭に著しい渋滞が発生していました。
- 天城北道路の開通により、国道136号の交通が天城北道路に転換し、出口交差点の渋滞が解消しました。
- 当該交差点は主要渋滞箇所となっていました。渋滞解消により、主要渋滞箇所から削除されました。

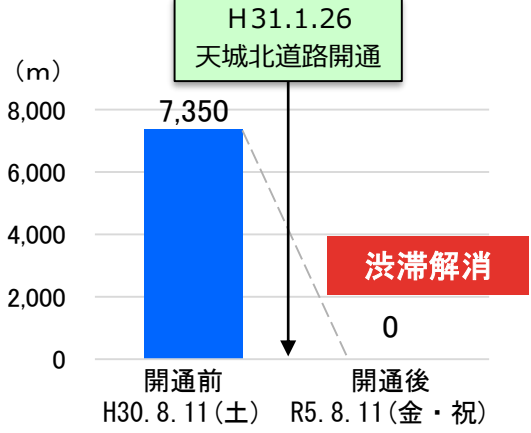
○国道136号出口交差点の渋滞発生状況



○開通前後の交通状況（お盆期間中）



<出口交差点（下田方向）の最大渋滞長>



○出口交差点の渋滞状況



出典：渋滞長・交通量調査結果  
開通前：H30.8.11(土) 開通後：R5.8.11(金・祝)

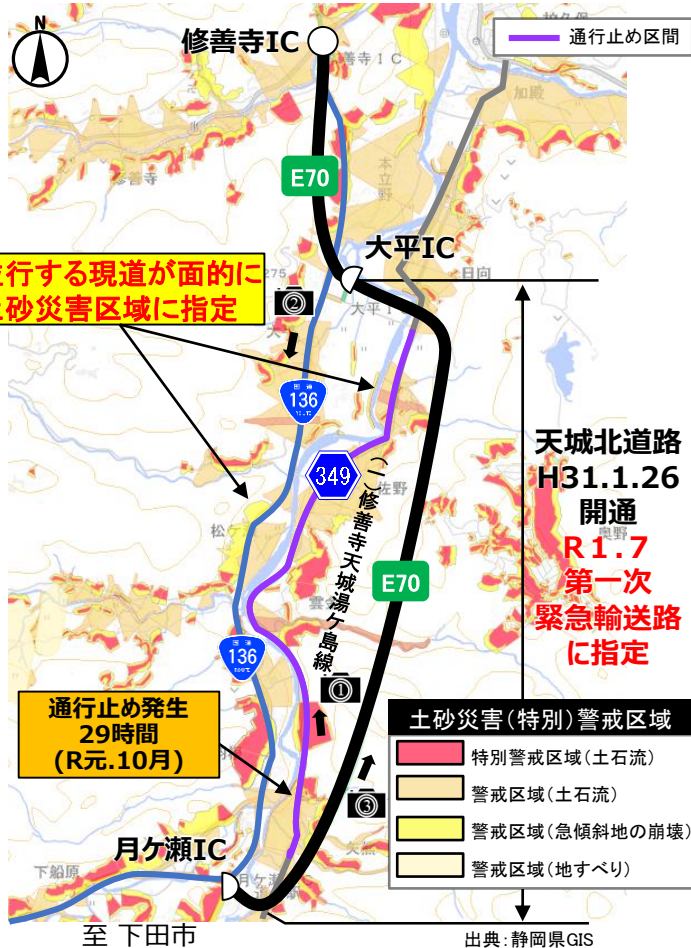
# 2. 評価の視点

## (1) 事業効果の発現状況

### ② 緊急輸送路の機能強化

- 天城北道路に並行する国道136号及び修善寺天城湯ヶ島線は土砂災害危険箇所面に面的に指定されており、修善寺天城湯ヶ島線では通行止めが発生し、人流・物流が阻害されていました。
- 天城北道路の開通により、当該道路が第一次緊急輸送路に指定。土砂災害危険箇所を回避するとともに、トンネルや橋梁により、雨等による土砂災害のリスクが少ない道路が確保され、緊急輸送道路としての機能が強化されました。

#### ○土砂災害（特別）警戒区域の指定状況 至 沼津市



#### 📷 修善寺天城湯ヶ島線 通行止め状況



#### ○修善寺天城湯ヶ島線における通行規制実績

規制期間	R1.10.11 12:30 ~ R1.10.12 17:30
事象	崩土
規制種別	全面通行止
規制時間	29時間

出典：通行止め実績（静岡県提供データ）

#### 📷 国道136号 土砂災害危険箇所



#### 📷 天城北道路 走行状況



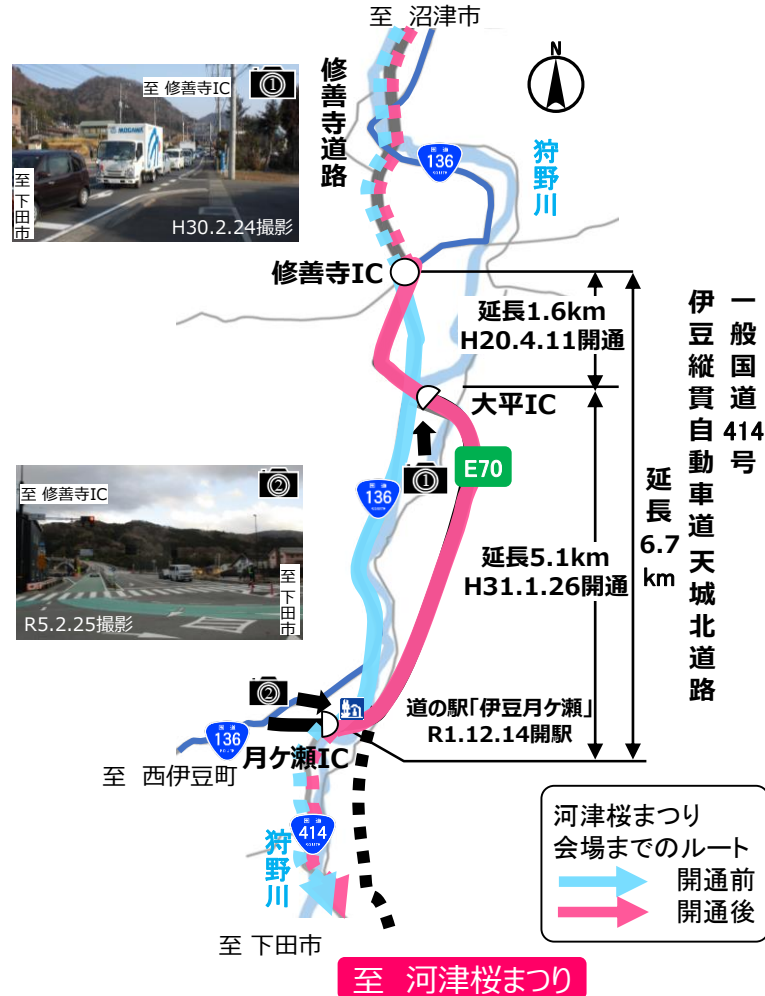
# 2. 評価の視点

## (1) 事業効果の発現状況

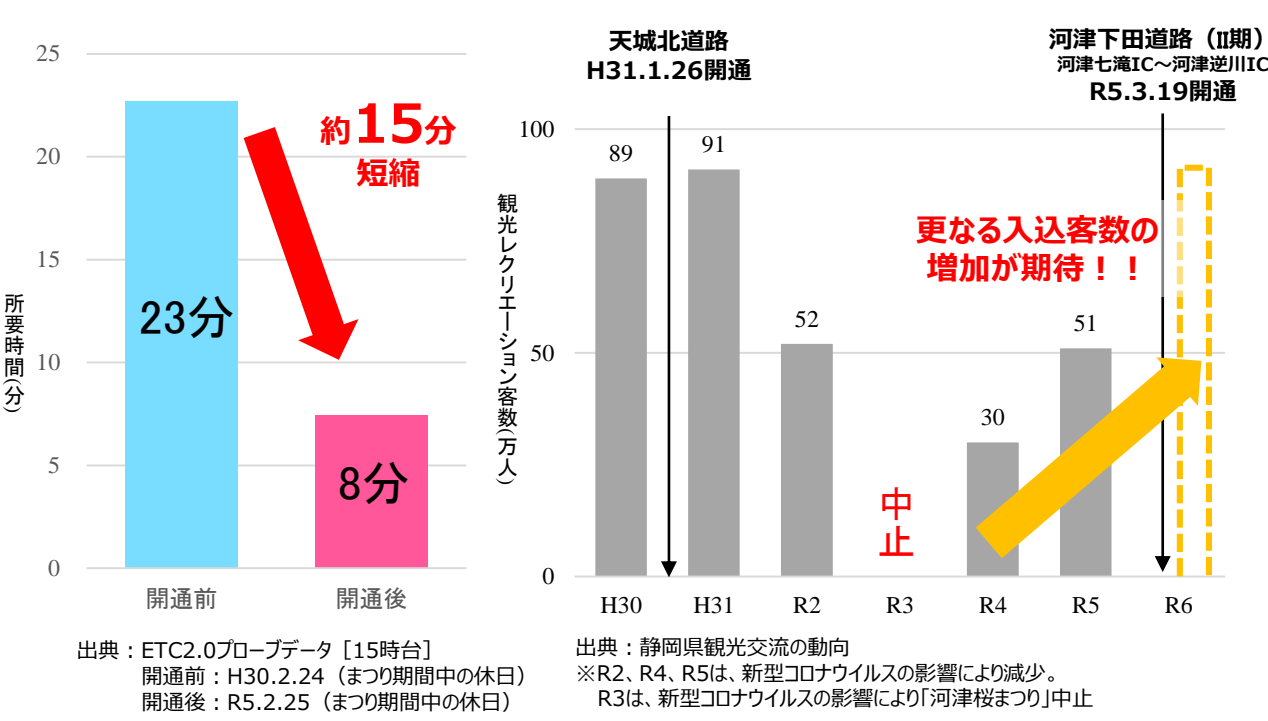
### ③ 観光振興の支援(その1)

- 天城北道路の開通により、河津桜まつり時における所要時間が約15分短縮されました。
- 河津桜まつりが開催される河津町へのアクセス性が向上したことにより、更なる入込客数の増加が期待されます。

○河津桜まつり時における所要時間の変化（修善寺IC⇒月ヶ瀬IC）



○河津桜まつりの来場者数



### 南伊豆町地域振興課コメント (R1.8.21)

- 天城北道路の開通による観光需要の増大に期待して、南伊豆町、西伊豆町、松崎町の3町共同で観光宣伝する組織を立ち上げました。
- 天城北道路が開通したため、アクセス性の向上を宣伝し、南伊豆町の河津桜をPRしていきます。



# 2. 評価の視点

## (1) 事業効果の発現状況

### ③ 観光振興の支援(その2)

- 令和元年12月14日に天城北道路の月ヶ瀬ICに直結する道の駅「伊豆月ヶ瀬」が開駅しました。
- 伊豆半島全体の広域観光情報の提供、サイクルステーションの設置等、伊豆半島の新たな観光拠点を創出しています。
- 利用者数は、令和4年度で210万人を突破し、観光振興・地域の暮らしを支える施設としても機能しています。

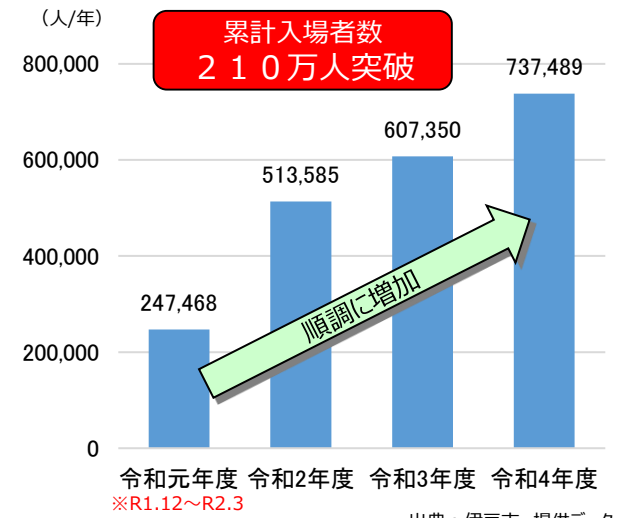
○道の駅「伊豆月ヶ瀬」の位置図



○道の駅「伊豆月ヶ瀬」全景



○道の駅「伊豆月ヶ瀬」の利用者数の推移



○道の駅「伊豆月ヶ瀬」の状況

#### <賑わい状況>



#### <情報提供施設>



#### <サイクルステーション>





## 2. 評価の視点

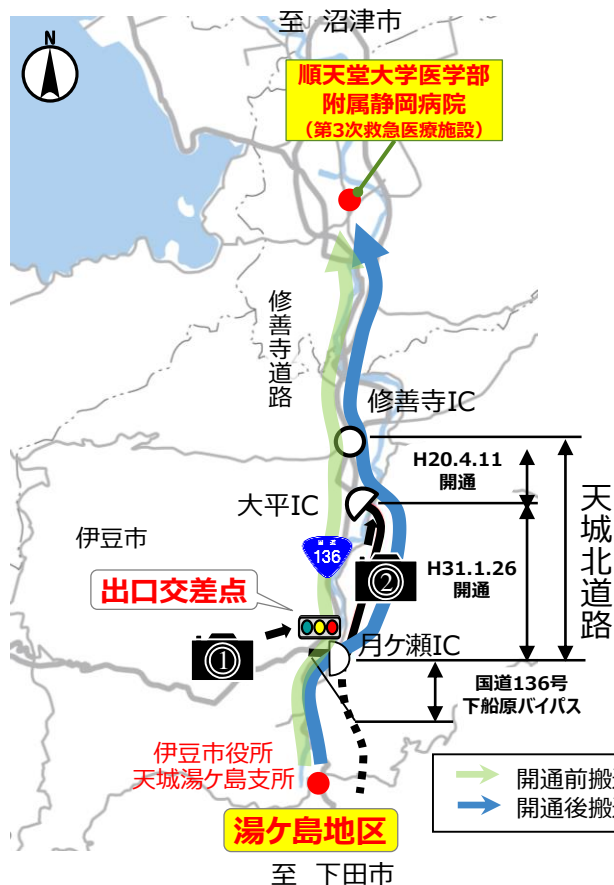
### (1) 事業効果の発現状況

#### ④ 救急医療活動の支援

- 伊豆地域で高次医療が受けられる第三次救急医療施設は、伊豆の国市に位置しており、湯ヶ島地区以南からの観光期の救急搬送に関しては、国道136号の混雑により、速やかな救急搬送に支障が生じていました。
- 天城北道路の開通により、観光期の搬送時間が短縮され安定した救急輸送の確保を実現し、円滑な救急医療活動を支援しています。

○湯ヶ島地区～順天堂大学病院への搬送ルート【救急搬送状況】

<国道136号>



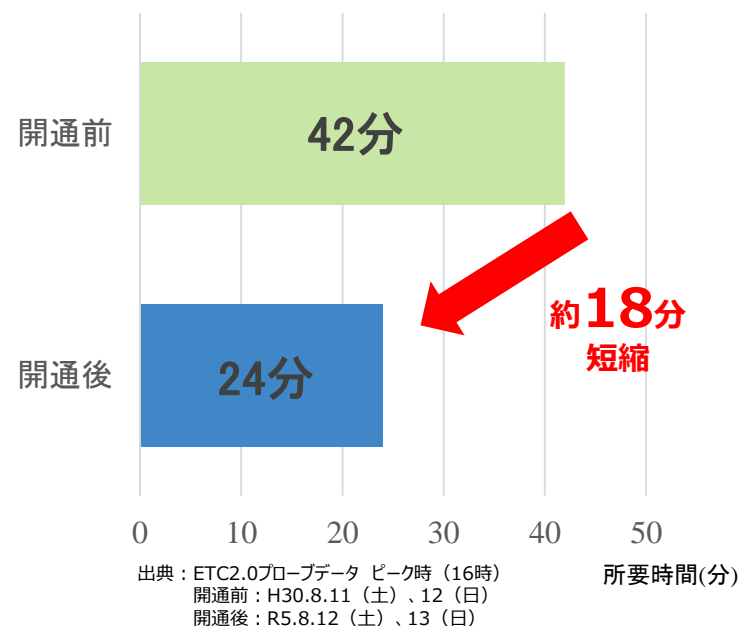
開通前

<天城北道路>



開通後

○観光期（お盆時期）における所要時間の変化  
（湯ヶ島地区⇒順天堂大学病院）



駿東伊豆消防本部コメント (R1.7.26)

- 天城北道路開通後は、湯ヶ島地区から順天堂大学医学部附属静岡病院への救急搬送を、国道136号から天城北道路経路に変更しました。
- 天城北道路開通後、搬送時間が短縮されるとともに、患者への身体的な負担の軽減にも繋がっています。



# 3.費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

## (1)当初計画および供用の状態

事項	当初計画 (H15再評価時)	前回評価 (H27再評価時)	事後評価	備考
道路構造等	2車線(修善寺JCT以北) 4車線(修善寺JCT以南)	2車線(修善寺JCT以北) 4車線(修善寺JCT以南)	2車線 ※3	
全体事業費	約570億円	630億円	485億円	
交通量	21,600台/日 ※1	13,200台/日 ※2	12,600台/日 ※4 (9,289台/日) ※5	
事業期間	平成6年～平成31年 (26年)	平成6年～平成41年 (36年)	平成6年～平成30年 (25年)	
費用対効果(B/C)	3.2	1.4	1.3 (1.3) ※6	

※1 R2(H32)将来OD(H6全国道路・街路交通情勢調査ベース)でフルネットワークで算出した計画交通量

※2 R12将来OD(H17全国道路・街路交通情勢調査ベース)で事業化ネットワークで算出した計画交通量

※3 早期の効果発現を図るべく、暫定2車線での整備を行った

※4 R22将来OD(H27全国道路・街路交通情勢調査ベース)で事業化ネットワークで算出した計画交通量

※5 R3全国道路・街路交通情勢調査による実績交通量(伊豆市湯ヶ島 調査単位区間番号:22000-11685)

※6 伊豆縦貫自動車道(沼津岡宮IC～(仮称)下田IC)を一体評価として算出した場合の費用対効果分析結果

## (2)現道の状況

事項	整備前	整備後	整備による変化	変化の内容または理由
交通量 ※1 (国道136号)	19,200台/日	7,200台/日	12,000台/日減少	交通量転換
旅行速度 ※2 (国道136号)	32.9km/h	36.0km/h	3.1km/h向上	交通混雑の緩和による速度向上
死傷事故率 ※3 (国道136号)	132.4件/億台キロ	18.9件/億台キロ	113.5件/億台キロ減少	交通混雑の緩和による 死傷事故率の減少

※1 整備前:交通量調査結果(出口交差点北断面 H29.2.19(日))、整備後:交通量調査結果(出口交差点北断面 R5.2.25(土))

※2 整備前:H27全国道路・街路交通情勢調査(修善寺IC交差点～月ヶ瀬IC交差点 昼間12時間上下平均)、整備後:R3全国道路・街路交通情勢調査(修善寺IC交差点～月ヶ瀬IC交差点 昼間12時間上下平均)

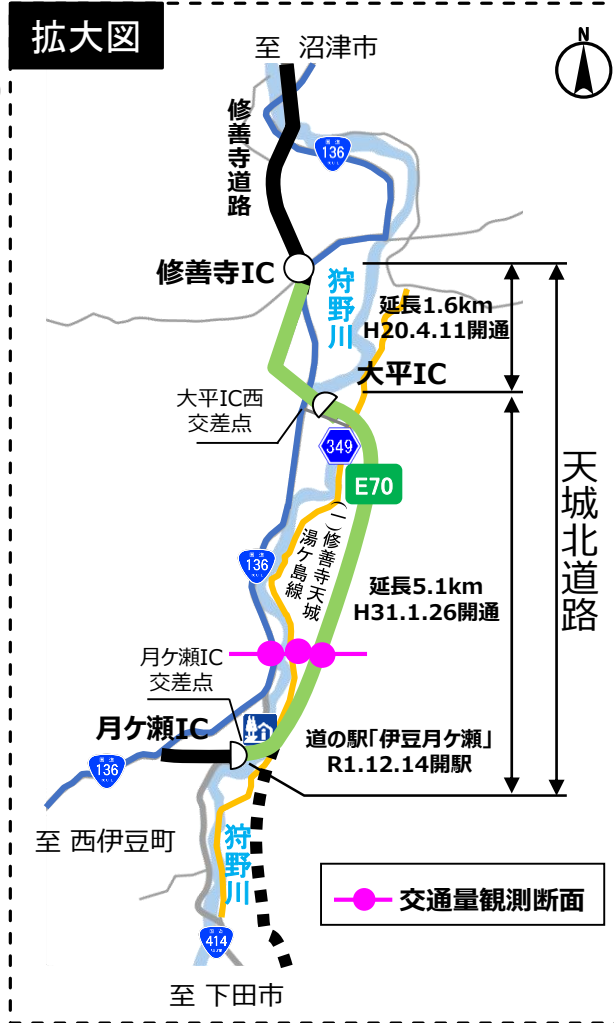
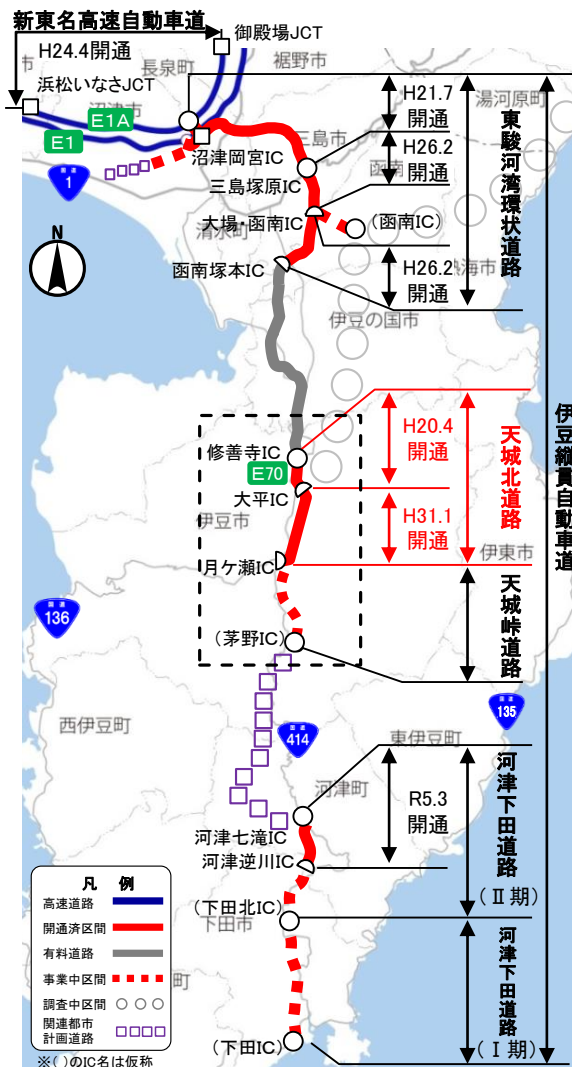
※3 整備前:ITARDAデータ(修善寺IC交差点～月ヶ瀬IC交差点 H26～H29)、整備後:ITARDAデータ(修善寺IC交差点～月ヶ瀬IC交差点 R1～R3)

# 4. 社会経済情勢の変化

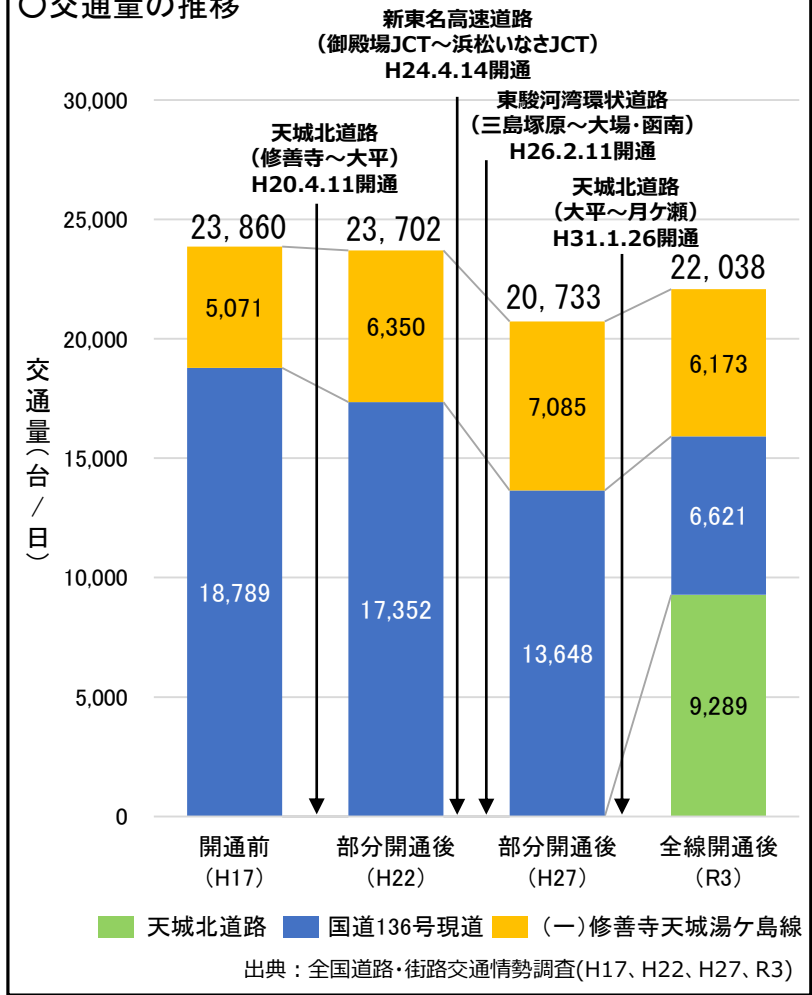
## ① 幹線ネットワークの拡充

■平成20年4月に天城北道路の修善寺IC～大平IC間が、平成31年1月に大平IC～月ヶ瀬IC間が開通しました。

■断面交通量は横ばいで推移していますが、天城北道路の全線開通により、国道136号現道の交通量は約6割減少し、天城北道路に転換しています。



○交通量の推移



## 5. 対応方針(案)

### (1) 今後の事後評価の必要性

- 一般国道414号 伊豆縦貫自動車道 天城北道路は、暫定2車線の効果が発現していることから、今後暫定2車線に対する事後評価の必要はないと考えます。
- なお、伊豆縦貫自動車道は複数の区間を一体とした評価を実施しておりますので、引き続き、天城北道路を含めた伊豆縦貫自動車道全体での事業評価を実施する予定です。

### (2) 改善措置の必要性

- 一般国道414号 伊豆縦貫自動車道 天城北道路は、効果が発現しており、暫定2車線までについて改善措置の必要性はないと考えます。
- 今後は周辺の道路ネットワーク整備の進捗状況や交通状況を踏まえて、4車線化を検討します。

### (3) 計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性はないと考えます。